

教科	保健体育科	宮崎県立〇〇高等学校	教諭 〇〇 〇〇
----	-------	------------	----------

【研究授業】

日時	令和2年10月1日(木曜日) 5限目				
実施学級	1年普通科 40名	科目名	体育	単元名	体づくり運動

今回、研究授業を「体づくり運動」で行った。本領域は、運動やスポーツの習慣化に繋げる観点から、ねらいに応じて実生活に生かす運動の計画を思考する内容である。これから先求められていくコンピテンシーベースの授業をイメージしながら、まずは授業終了時の到達目標を考え、逆算するように授業内容や評価についての計画から行った。本時の目標が仲間と話し合いながら合意形成をするための関わり方をみつけていく「思考力・判断力・表現力等」の部分だったため、話し合えるだけの知識がなくては対話も浅く、深い学びにも繋がらないと考え、中学校の学び直しに遡って知識の定着からスタートした。そして、知識を広げる学習として ICT 機器を活用し、classi に調べたことを動画で各自撮影して課題提出、グループ学習で運動計画を立てる際にクラスで集約した課題を共有できる取り組みを行った。

体育の「見方・考え方」は、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けることと記されている。このような「見方・考え方」は習得・活用・探究という学びの過程の中で資質・能力が育まれ、更に豊かなものになっていくと考える。「見方・考え方」を軸とした授業改善として対話の指導を継続的に行った。場面毎に話し合う視点を絞って生徒達がどのように話し合いを進めていくのか分かるように具体例をいくつも出して対話の質を高めるように指導した。対話のなかから何が必要か考え、試行錯誤を重ねる姿が多く見られたので、より研究テーマに近づいた生徒の姿が見られたのが印象的である。また、ホワイトボードに全てのグループの進捗状況を掲示し、自分のグループの現状把握と主体的に他のグループからアドバイスを受け、更なる課題解決に向けて取り組める教材教具の工夫を行った。自分にはない考えや発想を仲間から取り入れながらベストな答えを導き出すプロセスを体育の授業だけでなく、本校は現在文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進授業」の指定を受け、全ての教科で横断的に探究的な学習を進めていることから、生徒達の取り組みも積極的で、予想以上の理解度を感じられることができたのはよかったと思っている。

研究協議では、カリキュラム・マネジメントの視点から「保健」「体育理論」の内容に触れながら単元構造図が作成されていることや、付箋を使用して計画の立案をすることは、順番の入れ替えや候補を検討しやすく、話し合いが効率よく進んでいたこと、生徒の思考の流れを明確にし、深い学びにつながる学習カードになっていたこと、ループリックで具体的な評価項目を示し、学習評価に繋げていこうとする取り組みがみられた等が挙げられた。しかし課題も多く、実技を伴う教科であるため学習指導要領に示された「共生、責任、健康、安全」等、指導事項へのコロナ渦での工夫に苦戦することが多いことや、ICT 機器活用や話し合いの時間が長くなると体育固有のよさがなくなってしまうので、授業中の時間配分が大事になってくることも今後の課題だと感じている。

研究授業を終えて、主体的・対話的で深い学びの視点に立った更なる授業の改善に努めていきたい。